

概要報告

| | |
|------|---------------|
| 実施期日 | 7月29日(火) 【午後】 |
| 部会名 | 小学校 外国語活動部会 |

テーマ 『どの子どもでも楽しめるコミュニケーション活動をめざして』

提案概要

- 子どもたちは外国語活動の授業を楽しみにしている。だからこそ教師が課題意識をもって、授業内容を考える必要がある。外国語活動を楽しんで、安心できる授業作りを目指した。

使用教材 Hi, Friends! “What do you want?”

- 街の様子が描かれている中に文字が隠れている。文字を見つけることだけではなく、絵を英語で何というのか子どもたちとやりとりしながら授業をしていく中で、子どもたちの大文字の認識は大丈夫そうだと感じた。
- どうやってI want~.の活用につなげていこうか考えた中で、カードゲームを通して活動の中でたくさん使えるように工夫した。カードは小文字にした。カードを組み合わせることで単語を作るとは、子どもたちにすんなりと受け入れられた。どの子どもでも楽しめるコミュニケーション活動になったと思う。
- 担任が学級の実態に合わせて授業作りをすることは大変で、もう少し教師側にバリエーションがあるとよいと感じた。

質疑概要

- 質問：ゲームのルールについて。カードゲームは、手持ちのカードが少なくなったらどうするのか。
- 回答：カードはグループで交換する。真ん中に山があって、少なくなったらその分取る。
- 質問：手詰まりになることはないのか。
- 回答：完成したら、真ん中の山から4枚取る。ひとつの単語を完成させられるようになったら、次は2つめの単語をつくる。といったように、ルールを展開していくとよい。

研究協議概要

7グループに分かれて「児童が積極的に声に出して使いたくなるような表現活動の指導方法について」話し合いをした。また、各校の具体的な実践を発表し、全体で共有した。

(各グループの発表から)

- 「鍋のレシピを考えよう」という授業を行い、わからない言葉は外国人講師に聞く形をとった。英語表現を自然に親しめる研究が必要だと思う。
- 観光に来る外国の方たちに話しかけに行く活動をしている。話す言葉・表現をあらかじめ決めておく。何回か行くと子どもたちが慣れてきて、活動が活発になっていく。6年になると、自分たちでテーマを決めてインタビューに行き、意欲的な活動となった。
- 5・6年以外にも外国語活動に触れさせたいと思い、他学年でも掲示物や朝の会に外国語を取り入れている。
- ゲーム性のあるものは、子どもたちの盛り上がり方が違うと感じた。6年生の最後に外国語劇をしている。既習事項を使って発表する場を設定している。
- 授業の中身が大切で、内容がとても魅力的だと子どもたちの反応も良いし、積極性につながる。
- 早口言葉を授業に取り入れ、楽しんで学習している。また、修学旅行の日光すごろくを作って、外国語に親しんでいる。
- 外国人サポーターが読み聞かせをしている。子どもの気持ちを大切にする外国人講師が魅力的であり、子どもたちも積極的に取り組めると思う。

まとめ概要

- 中学校では、ここ数年で子どもたちがとても変化してきていると感じる。わからない言葉でも一生懸命聞き取ろうとする姿があり、コミュニケーションを取ろうとする子どもがとても増えてきている。これは、小学校の外国語活動の成果だと感じる。
- 外国語の素地を養うためのアイデアを教師がたくさんもつこと、そしてそれを子どもたちの活動に取り入れ、子どもたちの実態をわかっている担任が行うことに外国語活動の良さがあると思う。
- 失敗を恐れずに教師が自ら外国語を使うことで、教師の姿を見て子どもは「楽しそう！」と思うだろう。
- 教師のこだわりは捨てず、担任だからできることを大切にしていくことが大事である。
- 授業が終わったときに子どもが「もう一度やりたい！」と思うような雰囲気を作り、みんなが取り組める環境を作ることが外国語を好きになることにつながる。